

2019年度事業報告 ー特養・短期部門ー

目 標	1. 家族へ入居者のようすを伝え安心と信頼を提供する 2. 利用者の安心できる環境をつくる 3. 楽しみと喜びのある生活を提供する 4. 入居相談の受付と適切な受入れ態勢を維持できるよう職員のスキルアップ 5. 他部署間の意識統一と入居者に安心できるサービスの提供 6. 排泄介助用品の適正化を実施 7. 介護補助用品の情報収集と導入に向けた検討 8. 排泄、身体拘束、食事、感染、褥瘡、介護技術、救命等の研修を実施 9. 外部研修への参加と施設内伝達	
実 績	目 標 (値)	実 績 (値)
	1 : 家族へ半年に一度は近況連絡する。	1 : ・施設ケアマネより半年に1度、家族へ普段の様子を手紙にて連絡。 ・栄養士より3ヶ月に1回栄養計画を通じ家族へ様子を連絡。
	2 : ①月間アクシデント5件以内 ②皮膚疾患の医療的処置者5人以内/月	2 : ①月間アクシデント月平均6.4件 5件以内は5ヵ月 ②処置対象者月平均3.5名 5名以内は11ヵ月
	3 : 月2回以上の行事と週2回の豪華オヤツ	3 : 月に2回以上の行事の実施。 週2回の豪華なおやつを提供。
	4 : 特養稼働率: 99% 短期稼働率: 65% 全体稼働率: 94.7%	4 : 特養稼働率: 98.0% 短期稼働率: 44.8% 全体稼働率: 91.0%
	5 : 定期的な委員会を開催しサービスの向上	5 : 年間42回のミーティング、14回の委員会の開催。
	6 : 排泄用品の見直し	6 : 毎月、利用者様にあった排泄使用物品の見直しを実施した。別メーカーの排泄物品の検討も行った。
	7 : 職員の身体的負担の軽減	7 : 介護負担の軽減に繋がる製品を3種類導入。
	8 : 7件の研修を実施する	8 : 9件の施設内研修を実施。
	9 : 外部研修へ参加	9 : 4件の外部研修への参加。

総括

- 1 : 定期的に利用者様の様子連絡を行うことで御家族から「安心しました」「ありがとうございます」などの感謝の言葉も頂き安心感や信頼に繋がったのではないかと思います。
- 2 : ①月間5件以内の目標に対し達成出来たのは12カ月中5か月であり目標達成には至らなかった。原因の1つとして数名の同じ利用者様の剥離アクシデントが続いた事があげられる。拘縮の強い方、精神疾患のある方の剥離が多く再発防止を検討し対応したが効果的な対応策に至るまでに時間がかかってしまった。
個々の利用者様にあった対応が出来るよう各専門職が連携し事故防止に努めていく。
②処置対象者、毎月5名以内の目標は達成出来なかったが、各専門職が連携し処置の見直し、体位交換、臥床時間、陰部洗浄、食事などの予防、早期対応を行うことで、12カ月中11カ月は処置対象者5名以内であった。
今後も各専門職が連携し褥瘡予防に努めていく。
- 3 : 年間33回の行事を実施することで利用者様に喜んで頂けた。2019年度は新たに、おやつレク（湯豆腐、湯葉、綿菓子等）、遠方への外出行事（名古屋へサーカス見学）を実施し好評であった。
- 4 : 特養の新入居者は20人あり退居者も20人であった。8月の看取り退居者が7人あったため長期利用の方から変更等をおこなったが満床に戻すまでに4カ月を要してしまった。また長期利用者を増やせなかったのが短期稼働率に影響を与えた。
- 5 : 特養内で行事、食事、排泄入浴、身体拘束廃止、褥瘡の各ミーティングを開催し利用者様のサービス向上について話し合いを実施し、楽しみ喜びのある生活、安心できる生活を送って頂けるよう活動を行った。
また施設全体で、食事、身体拘束廃止、感染、防災の各委員会を開催することで施設としての意識を統一することが出来た。
- 6 : 毎月、利用者様にあった排泄使用物品を見直すことで利用者様に安心した生活を送って頂けた。また排泄使用物品の一覧表を作成することで無駄のない使用、職員のコスト管理への意識も高まった。
別メーカーの排泄物品をお試しで使用し導入の検討を行ったが機能面、コスト面から導入は行わなかった。
- 7 : 介助シート、スライディングボード、ベッドマットを導入した。介助シート、スライディングボードを使用する事で移乗時の介護負担の軽減。ベッドマットの入れ替えにより褥瘡の軽減、予防に繋がった。
- 8 : 9件の研修を実施する事で介護に必要な知識技術の向上させることが出来た。また、経営理念研修や職員の健康管理の研修を実施したことで、経営理念、健康管理に対する意識、理解が高まった。
- 9 : 4件の外部研修（接遇、排泄、指導、主任係長講座）へ参加し、復命書を他の職員が閲覧できるようにファイリングすることで、参加していない職員の知識の向上にも繋がって良かった。

目 標	1. 利用者、家族、双方からの意見や要望に真摯に向き合う 2. 利用者、職員の健康管理に努める 3. 外部、他部門と連携を取り円滑な業務遂行に努める。 4. 看取りを通し、安らかな最期を提供する。 5. 看護職員のスキルアップ	
実 績	目 標 (値)	実 績 (値)
	1 ①個々の人権を尊重した対応 ②クレーム発生時の速やかな対応 ③身体的拘束 0件 心理面の拘束については職員間で注意し合い起こらないように努める	1 ①個人の意思を尊重した対応ができ、意思疎通不可な場合は家人と話し合いを持ち対応できた。 ②クレーム0件 ③身体拘束0件
	2 ①救急搬送【年間5件以内】 ②入院期間【2か月未満】 ③集団感染を未然に防ぐ ④褥瘡の予防に努め、2週間以内の治癒を目指す。 ⑤職員の不調に注意を払い、健康増進に努める。 ⑥施設内で出来る体操・リハビリ補助を行う。	2 ①救急搬送9件 ②1名を除き2か月未満(最長68日) ③伝染性疾患の施設内感染0件 ④1件のみ未達成 骨折、肺炎にて青木記念病院へ入院68日間にわたる加療中に踵と趾間に難治性の褥瘡発症。退院後は、連日足浴行い、亜鉛ゼリー提供することで徐々に回復傾向。 ⑤長期療養者1名(心療内科) ⑥コロナ渦において自粛中。
	3 ①他施設からのクレーム0件 ②他部門と情報を共有し、また法人内の委員会や分科会に出席してサービスの向上、施設全体のレベルアップにつなげる ③専門診療科との連携をとおり知識の習得に努める。	3 ①連携病院、薬局、他科受診病院からのクレーム0件 ②各種委員会、ミーティング参加率100% ③カンファレンスにて診断結果、薬事情報の把握を共有。
	4 ①利用者、家族の尊厳に配慮したインフォームドコンセントの実施 ②苦痛の緩和 ③環境整備 ④利用者、家族、職員のメンタルをサポート	4 ①看取り面談済32件。 看取り同意書済32件。 ②③個々に合った対応を行い、安らかな最期を提供。 ④訪室回数を増やし、家人へ状態報告

	<p>する</p> <p>⑤看取り後、家族からのご意見（アンケート）を参考にし、サービス向上に努める。 【アンケート評価5段階中4以上】</p>	<p>を行なった。（特例面会の実施）</p> <p>⑤アンケート回収：16件中、6件。 満足度98%</p>
	<p>5 ①研修への参加 【年間通し看護職員全員の参加を達成する】</p> <p>②医務研修を通し職員へ医学的知識を提供する。【年間2回以上】</p> <p>③語らいでの家族介護教室を通し地域住民に情報を発信する。</p> <p>④向上心を持って自己啓発に努める。</p>	<p>5 ①新型コロナウイルス感染防止の影響で外部研修参加困難。</p> <p>②③5月「腸活」10月「血管」について研修を実施。</p> <p>④スキルアップファイルを作成し知識を共有。</p>
<p>総括</p>	<p>1 職員の声掛け次第で、利用者を元気づけたり、不穏にしたりするということを念頭に置き、目上の方への対応を考える。忙しい中にも思いやりと優しさを忘れないといったスタンスで接し、利用者はもちろん家族にも満足いただけるよう努力していく。</p> <p>2 意思を表出できない高齢者の状態観察を積極的に行うことで、早期に発見し対応できる力を身に付けていけたらと考える。</p> <p>3 各種ミーティングに参加し、意見交換することで、いくつもの対応策を提案出来、工夫も出来、アイデアも生まれたと感じる。今後も会議やミーティングを通し、より良い環境作りに貢献していく。</p> <p>4 アンケートのマイナスポイントは、設備・環境面であった。 入居には個人差がある為一概には答えられないが、動物と触れ合ったり、子供たちの慰問なども喜ばれるのでは？という意見もいただいた。（直接看取りとは関係ないが、今後の取り組みの参考にしたい。）</p> <p>5 感染対策で自粛中の中でも、身近なツールを活用して自己啓発に努めた看護師も多く、知識を共有できたと考える。</p>	

2019年度事業報告 一通所介護部門

目 標	1. 収入増に努める。 2. 職員間や他部門との連携を図る。 3. 職員のスキルアップ 4. レクリエーションプログラムの充実 5. 楽しく安心な入浴の実施 6. 機能訓練の充実 7. 体調管理													
実 績	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="280 562 911 607">目 標 (値)</th> <th data-bbox="911 562 1468 607">実 績 (値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="280 607 911 801"> 1 登録利用者数を増やし稼働率を向上させる。 全登録者数 75名以上、 平均利用者数 30名以上/日 </td> <td data-bbox="911 607 1468 801"> 1 令和2年3月末現在 登録者数 99名 年間平均利用者数32.2名/日 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 801 911 1043"> 2 ミーティングを第1・3月曜日に行い、部門内の課題を解決する。 また、他部署との連携を図り、利用者が安心して日々を送れるようにする。 </td> <td data-bbox="911 801 1468 1043"> 2 予定通り毎月第1.3月曜日に職員ミーティングを実施。 送迎職員が不足している時には他部署から応援してもらい体制ができ安全に送迎が行えた。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 1043 911 1189"> 3 外部研修に職員を積極的に参加させ、受講後、必ず伝達研修を行う。 </td> <td data-bbox="911 1043 1468 1189"> 3 職員6名がレクリエーション、医療介護技術等6件の外部研修へ参加した。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 1189 911 1574"> 4 ①季節感のあるレクリエーションを充実させる (春…お花見 夏…夏祭り 秋…運動会 冬…クリスマス会) ②新しいレクリエーションメニューを各職員が半期ごとに1つ以上提案し、日々のレクリエーションメニューのマンネリ化を防ぐとともに、楽しみを持つ事が出来る環境作りに努める。 </td> <td data-bbox="911 1189 1468 1574"> 4 ①各季節ごとの定例行事は、予定通り実施できた。 ②おやつレクを毎月実施した。 (どら焼き、五平餅、パフェ作り等) 創作レクは、利用者と職員が一緒になり、季節にあった物を作った。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 1574 911 2056"> 5 ①季節を感じる入浴の提供を行う。 ②浴室内の事故防止のため、チェックリストを作成して毎月1回浴室内の設備器具の点検を行う。 ③利用者の皮膚トラブルを早期に発見し、悪化を予防する。 </td> <td data-bbox="911 1574 1468 2056"> 5 ①湯舟から見える花壇へ花を植え楽しんで頂いた。2回/年。 季節の湯を実施した。2回/年。 ②毎月1回機器の点検をするとともに、浴室内の高圧洗浄も行った。 ③毎日の入浴時に全身状態を確認し怪我や皮膚疾患などを担当者で確認し、早期治療ができるように家族へ伝えた </td> </tr> </tbody> </table>	目 標 (値)	実 績 (値)	1 登録利用者数を増やし稼働率を向上させる。 全登録者数 75名以上、 平均利用者数 30名以上/日	1 令和2年3月末現在 登録者数 99名 年間平均利用者数32.2名/日	2 ミーティングを第1・3月曜日に行い、部門内の課題を解決する。 また、他部署との連携を図り、利用者が安心して日々を送れるようにする。	2 予定通り毎月第1.3月曜日に職員ミーティングを実施。 送迎職員が不足している時には他部署から応援してもらい体制ができ安全に送迎が行えた。	3 外部研修に職員を積極的に参加させ、受講後、必ず伝達研修を行う。	3 職員6名がレクリエーション、医療介護技術等6件の外部研修へ参加した。	4 ①季節感のあるレクリエーションを充実させる (春…お花見 夏…夏祭り 秋…運動会 冬…クリスマス会) ②新しいレクリエーションメニューを各職員が半期ごとに1つ以上提案し、日々のレクリエーションメニューのマンネリ化を防ぐとともに、楽しみを持つ事が出来る環境作りに努める。	4 ①各季節ごとの定例行事は、予定通り実施できた。 ②おやつレクを毎月実施した。 (どら焼き、五平餅、パフェ作り等) 創作レクは、利用者と職員が一緒になり、季節にあった物を作った。	5 ①季節を感じる入浴の提供を行う。 ②浴室内の事故防止のため、チェックリストを作成して毎月1回浴室内の設備器具の点検を行う。 ③利用者の皮膚トラブルを早期に発見し、悪化を予防する。	5 ①湯舟から見える花壇へ花を植え楽しんで頂いた。2回/年。 季節の湯を実施した。2回/年。 ②毎月1回機器の点検をするとともに、浴室内の高圧洗浄も行った。 ③毎日の入浴時に全身状態を確認し怪我や皮膚疾患などを担当者で確認し、早期治療ができるように家族へ伝えた	
目 標 (値)	実 績 (値)													
1 登録利用者数を増やし稼働率を向上させる。 全登録者数 75名以上、 平均利用者数 30名以上/日	1 令和2年3月末現在 登録者数 99名 年間平均利用者数32.2名/日													
2 ミーティングを第1・3月曜日に行い、部門内の課題を解決する。 また、他部署との連携を図り、利用者が安心して日々を送れるようにする。	2 予定通り毎月第1.3月曜日に職員ミーティングを実施。 送迎職員が不足している時には他部署から応援してもらい体制ができ安全に送迎が行えた。													
3 外部研修に職員を積極的に参加させ、受講後、必ず伝達研修を行う。	3 職員6名がレクリエーション、医療介護技術等6件の外部研修へ参加した。													
4 ①季節感のあるレクリエーションを充実させる (春…お花見 夏…夏祭り 秋…運動会 冬…クリスマス会) ②新しいレクリエーションメニューを各職員が半期ごとに1つ以上提案し、日々のレクリエーションメニューのマンネリ化を防ぐとともに、楽しみを持つ事が出来る環境作りに努める。	4 ①各季節ごとの定例行事は、予定通り実施できた。 ②おやつレクを毎月実施した。 (どら焼き、五平餅、パフェ作り等) 創作レクは、利用者と職員が一緒になり、季節にあった物を作った。													
5 ①季節を感じる入浴の提供を行う。 ②浴室内の事故防止のため、チェックリストを作成して毎月1回浴室内の設備器具の点検を行う。 ③利用者の皮膚トラブルを早期に発見し、悪化を予防する。	5 ①湯舟から見える花壇へ花を植え楽しんで頂いた。2回/年。 季節の湯を実施した。2回/年。 ②毎月1回機器の点検をするとともに、浴室内の高圧洗浄も行った。 ③毎日の入浴時に全身状態を確認し怪我や皮膚疾患などを担当者で確認し、早期治療ができるように家族へ伝えた													

	<p>6 ①利用者のADLを維持・向上できるように日常生活動作の評価を年3回実施する。</p> <p>②リハビリ機器を安心・安全に使用できるよう職員全員が各機器の操作方法を習得する。職員が適切に機器を扱えているかどうかの評価を機能訓練指導員が1回/月行う。</p>	<p>6 ①4月10月3月に日常生活動作の評価を実施した。新規利用者は利用開始時に評価を行った</p> <p>②職員3名が機器の操作方法を習得し、理学療法士が不在時でも安全確実に操作できるようになった。</p>
	<p>7 ①信頼して頂ける施設を目指すために集団感染防止に努める。</p> <p>②利用者自身が健康に留意し毎回、欠席することなく利用して頂くため、感染症または高齢者に多い疾患の情報を隔月に掲示し、啓発する。</p>	<p>7 ①インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染症に罹患した利用者はいなかった。また、3月より流行した新型コロナウイルスへの罹患者もいなかった。毎朝自宅での体温測定も実施し、連絡帳への記載のない利用者、家族へは手紙や送迎時に口頭でのお願いも行った。</p> <p>②偶数月にフロア内の掲示版へ疾病情報や運動方法などの掲示を行った。掲示物の案内を朝夕の挨拶時や機能訓練時に伝えていった。</p>
<p>総括</p>	<p>1 空き状況を定期的に居宅支援事業所へ送付、新規受け入れを随時行った。短時間利用者から通常時間利用者への変更も受け入れるとともに、デイ利用に対し消極的な方に対しては短時間利用から案内した。リハビリ機器での機能訓練を希望される利用者が多かった。</p> <p>2 利用者の状態報告などを適切に行うことで大きなアクシデントも防ぐことができた。送迎業務やフロアの見守りなど他部署との連携で安全に業務を行うことができた</p> <p>3 16名の職員全員に参加してもらいたかったが、勤務時間の問題、業務調整、新型コロナウイルスの影響による研修中止等で上記にとどまった。参加者からの伝達研修を行う時間が調整できなかった為、研修資料などを回覧し情報共有を行った。</p> <p>4 おやつレクを充実させ利用者参加型にし、料理を楽しんでもらった。また創作レクでも季節ごとの創作物を作成し、作品を毎月フロアの壁に掲示した。</p> <p>5 季節ごとに花壇に花を植えるとともに、菖蒲湯やゆず湯などを実施した。機器の点検により早期修理が行えたが、機械浴装置の故障が多かった。</p> <p>6 評価を定期的に行う事で、身体機能が低下している原因などもわかり、訓練の内容や本人へのアドバイスがしやすくなった。新人職員以外は、リハビリ機器の操作はできるようになったが、介護職員は定期的に機器を操作しないと取り扱い方法を忘れてしまう事もあるため気をつけていきたい。</p> <p>7 来所後に、発熱や下痢などの体調不良に気づく利用者もみえたが、その際は、直ちに帰宅していただき、数日間利用を見合わせていただく対策をとることで、感染の拡大を防止できた。掲示物に関心を持たれる利用者も多く、健康に留意する利用者が増えた。しかしながら、健康に対する啓蒙活動にもかかわらず、自宅で転倒され骨折、その後筋力低下にて利用中止となる利用者もあった。</p>	

2019年度事業報告 — 居宅部門 —

目 標	<p>1. 資質向上のための勉強会や研修に積極的に参加する。</p> <p>2. 新規訪問・困難事例を二人体制で対応し、情報共有をしながら利用者が安心できるケアマネージメントを行う。</p> <p>3. 必要書類の見直しを行い、効率化を図る。</p> <p>4. 地域貢献、地域交流の実施</p> <p>5. 安定した収入を維持する。</p>	
実 績	目 標 (値)	実 績 (値)
	<p>1 ①毎週火曜日にミーティングを実施する 内容：勉強会、ケアプラン点検、困難事例の検討など</p> <p>②ケアマネ1人当たり年4回以上研修に参加し、受講後伝達研修を必ず行う</p>	<p>1 ①週1回のミーティング時に、制度の確認、ケアプラン、事例検討、困難事例の検討など行った。</p> <p>②伝達研修を実施。 参加回数 正崎（5回）後藤（4回） 竹内（6回）山本（5回） 松下（7回）成瀬（4回）</p>
	<p>2 新規訪問・困難事例を二人体制で対応し、情報共有をしながら利用者が安心できるケアマネージメントを行う。</p>	<p>2 新規訪問、二人体制は時間的な課題があり、殆ど行えず。 困難事例に関しては二人体制で対応。</p>
	<p>3 必要書類の見直しを行い、効率化を図る。</p> <p>4 ①地域との交流や地域に貢献する活動を推し進め、「語らい」を地域住民が気軽に集まれて何事も相談できる場所にする。また他の部門との連携を強化するために地域支援委員会を設置し、偶数月の第1金曜日に開催する。</p> <p>②「語らい」に住民が集まりやすいよう企画を充実させ、運営についてボランティアの活用を図る。</p>	<p>3 課題整理総括表の活用（福祉見聞録）モニタリングシート新規作成した。</p> <p>4 ①地域支援委員会の設置を見合わせ、年6回の家族介護教室をケアマネより施設の専門職に依頼し開催した。随時介護相談を受け付けた。</p> <p>②地域の方をボランティア講師に招き、絵手紙教室、ヨガ教室、オカリナ教室、伊勢型紙教室を開催、運営する。平日は毎日午前中体操、午後からカフェとして地域の方に活用して頂いた。</p>

	<p>5 ①介護支援専門員（常勤）</p> <p>1名あたり登録者数 35名以上／月 給付管理数 30名以上／月 （非常勤①、週2日東員町出向）</p> <p>登録者数 18名以上／月 給付管理数 15名以上／月 （非常勤②、専従）</p> <p>登録者数 28名以上／月 給付管理数 25名以上／月</p> <p>②入院や退院に関する加算、ターミナルケアマネジメント加算などプラスの加算管理を行い、遅滞なく算定する。</p>	<p>5 ①常勤</p> <p>1名あたり登録者数 34名／月 給付管理数28名／月</p> <p>非常勤① 登録者数19.3名／月 給付管理数17名／月</p> <p>非常勤② 登録者数15.8名／月 給付管理数13名／月</p> <p>②ターミナルケアマネジメント加算対象者なし。</p> <p>入院連携加算 39件/年 退院時連携加算 7件/年</p>
<p>総 括</p>	<p>1 「語らい」出向を兼務しながら、週1回のミーティング、研修を計画通り実施。タイトなスケジュールの中で調整しながら、ほぼ全員が参加。</p> <p>2 困難事例はチームのアドバイスを受けながら、二人体制で訪問・面談を行った。新規訪問に関しては、スタッフ全員が情報共有した。</p> <p>3 課題分析の書類は必須書類ではない為、各個人のプラン作成の過程において、効率的な書類を使用している。モニタリングシートは統一し、簡略化され、効率的になる。</p> <p>4 「語らい」の活動は、月～金まで毎日オープンし、月に200名程の方々が来所され、地域との繋がりを持つ事ができた。</p> <p>また家族介護教室を開催することで、パークレジデンスの施設をPRしつつ、各教室の運営により、地域活動の場となる。</p> <p>2020年3月より新型コロナウイルス感染対策の為、活動を自粛。2020年6月より第二地域包括支援センターが「語らい」の近隣に開設されることもあって、役割を終えたと判断し、同じ時期に「語らい」の閉所を決定する。</p> <p>5 新規利用、月平均5名、61名/年の新規受け入れがあった。</p> <p>新型コロナウイルス感染予防対策にて自粛モードの中、サービス利用が低迷し、目標数値に届かなかった。</p> <p>令和2年度も引き続き、ケアマネ業務を優先しながら、「語らい」で培った地域の繋がりを大切に、地域のコミュニティーセンターを借りて、家族介護支援事業や地域貢献活動を継続して実施していく。</p>	

目 標	1. 随時入居相談に応じていくことで、居室稼働率98%以上を目指す。 2. 入居者が安心できる環境をつくる。 3. 施設内外の行事・季節行事・食事選択メニューを充実させ、気分転換ができ、行事を通し話しやすい環境をつくる。 4. 職員を外部研修に参加させる（1回以上/人）とともに、すべての法人内研修に参加させ、高齢者に対する対応力や介護技術の向上を目指す。 5. 年3回ユマニチュード(認知症ケア)についての勉強会を実施し、ケア技法を習得する。 6. 職員間で情報共有を確実にできるよう毎月1回以上のミーティングを実施する。	
実 績	目 標 (値)	実 績 (値)
	1 居室稼働率 98%以上	1 居室稼働 91.6% (7375部屋/8052部屋)
	2 危機管理マニュアルを作成するとともにアクシデントの発生件数を月間3件以内とする。	2 危機管理マニュアル完成させた。 インシデント2件 アクシデント0件 車両事故 3件 (軽度な物損事故)
	3 ①施設内外の行事 月1回 ②選択レク 月8回 ③季節行事 年8回 ④特別食の提供 年7回 ⑤ボランティア訪問 年6回 ⑥運動、体操の時間 週1回 (デイサービス理学療法士) ⑦家族との交流 年1回	3 ①施設内外行事 1.8回/月 (年間22回) ②選択レク 5回/月 (年間60回) ③季節行事 9回/年 ④特別食の提供 3回/年 ⑤ボランティア訪問 4回/年 ⑥運動、体操の時間 0.88回/週 (年間46回) ⑦家族との交流 1回/年
	4 施設外研修 1回以上/1人 法人研修はすべて参加する。	4 施設外研修は、1人1回以上参加 法人研修は、全てに参加した。
	5 年3回ユマニチュード(認知症ケア)についての勉強会を実施	5 3回/年 実施 (11/2、11/3、11/8)
	6 毎月1回以上のミーティングの実施	6 年間13回開催

総 括

- 1 入居希望の話がある時と、空き部屋が発生した時のタイミングが合わなかった。突然亡くなられた方の退居後のハウスクリーニングに、時間がかかってしまい、空室状態が長くなった。(清掃業者との急な日時調整ができなかった。) また、入居決定後、先方の都合で入居に至るまでの日数が延びたりしたため、居室稼働率は、目標数値まで達成できなかった。
- 2 利用者のインシデントとしては、「散歩に出かけられて、歩道のない交通量の多い道路を歩かれた」「ベッドを倒そうとギャジアップを使ったところ手を挟みそうになった」の2件のみであった。散歩は歩行するコース(道)を入居者と話し合い、東西に走る幹線道路は歩かないように決定した。介助時には職員が十分注意して介助にあたるように職員同士確認できるようにした。
- 3 3月は新型コロナウイルス感染予防の為、外出行事・ボランティア訪問も中止とした。介護認定がなく、居室で過ごされる入居者が多くなってきたため、選択レクリエーションを取り入れ、料理や運動、外出などを楽しんでもらった。理学療法士が今年3月より1名欠員となった為、それ以降の運動が行えなくなった。そのため、入居者に必要な運動などを話し合い、専門職より指示を仰ぎ取り入れていきたい。特別食は魚国の職員不足があり予定していた回数より少なくなった。家族との交流として冬にクリスマス会を実施し6家族11人が参加された。初めての開催だったが、施設内での様子もよく分かり今後も続けてほしいとの要望も多かった。
- 4 外部研修に6名全てが参加できた。レクリエーション研修に参加した職員は選択レクで実践した。介護技術研修に参加させたことは、普段の入居者の支援に自信ができ、役に立った。
- 5 認知症入居者に対しての研修を開催したことで、普段の自分の言動と研修内容を合わせ自分に不足している部分を再確認でき、介護サービスが向上した。
- 6 定期開催を12回、次年度の目標設定ミーティングを1回実施した。定期開催では、個別介助方法の確認や設備の修繕等を話し合った。

2019 年度事業報告 —法人事務局部門—

目 標	<p>1. 利用者が快適に生活でき、かつ職員が快適に働けるように、ハード面で職場の環境面をサポート、整備する。</p> <p>2. 「働き方改革」に準拠した職場環境作りを目指す。</p> <p>3. 職員のコスト意識、目標管理意識の定着。</p> <p>4. 職員のコミュニケーションの改善、意思の疎通をよりよくするためのバックアップを行う。</p> <p>5. 施設内研修の講師招聘や受入時のサポートを行うとともに、外部研修についての案内があった場合は速やかに告知し、参加者を募る。</p>	
実 績	目 標 (値)	実 績 (値)
	1 設備類の巡視点検 (月 1 回) 及び給排水配管ルートの点検 (週 1 回)、による不具合の早期発見と迅速な改修改善を行う。	1 定期的な巡視点検を行い、修繕箇所に関して早期に改修改善を行った。
	2 就業規則の改正を 9 月までに完成させる。	2 9 月までに就業規則を改正した。
	<p>3① 適正な物品購入のルール作りを行う。</p> <p>② 外部コンサルタントの指導のもと、職員評価システム、キャリアパス制度を現行以上のものに再構築する。</p> <p>③ 介護保険請求の人為的なミス、2. 0 件以下へ減少させる。</p>	<p>3① 物品購入細則を作成するとともに、物品購入依頼の様式を新たに作成し運用を開始した。</p> <p>② 各職位・等級に対する人物像・等級定義を明確にするとともに目標管理の体制の整備を行った。</p> <p>③ 人為的ミスによる介護保険請求の平均返戻件数は 2.0 件であった。</p>
	4 本館 2 階旧浴室を、職員休憩室に改修し、各部門の職員が気軽に集まれる場所の提供を行う。	4 職員休憩室が 5 月に完成し、職員に開放した。
5 施設内研修受入時のサポートを行うとともに、外部研修についての案内があった場合は速やかに告知し、参加者を募る。	5 情報の提供を行うことで、43 件の外部研修の参加があった。 施設内研修での講師招聘 4 件	

総 括

- 1 施設の老朽化が進み、あらゆる箇所で大不具合が発生し始めているが、定期的な巡視を行い、早期に改善箇所を発見することで、迅速な改修改善を行うことができた。
- 2 有給休暇、時間外労働の就業規則を変更することで「働き方改革」に準拠した労働環境を整備できた。次年度は、「同一労働同一賃金」の制度に着手する。
- 3 ① 物品購入細則と新たな依頼書の作成により、物品購入に関する手続きを明確化し、金額によって様式を別なものにすることで、申請者、決裁者のコストに対する意識付けを行うことができた。
② 各職位・等級の定義および各等級に必要とされる人物像等を明文化し、キャリアアップへの道筋を明確なものにした。また法人理念を全職員に浸透させるとともに、それに連動すべき各部門目標の重要性も周知させた。
目標管理制度については、令和2年度から、各部門目標に対する個人目標の設定と管理、その評価システム等を学ぶための仮運用を行い、翌令和3年4月よりキャリアパス制度の本格的な運用に移行させる。
③ 各部門間の情報共有を行い、チェック体制を強化し請求業務を行うことで、昨年度の返戻件数を下回ることができた。
- 4 本館2階旧浴室を、職員休憩室に改修したことで、職員の休憩場所としての用途以外に、会議室、研修会場等としても有効活用できる場ができた。
また、そこには、TV、マッサージチェア、娯楽物品を設置した他、職員間のコミュニケーションを円滑にできるよう、全職員の自己紹介カードを掲示することで、他部門の職員と交流できるきっかけを提供できるようにした。
今後、さらなるコミュニケーションの場として活用を努めたい。
- 5 外部研修の情報を提供することで、研修への参加を促すことはできたが、人員配置の関係や、新型コロナウイルスの影響もあり、活発な外部研修の参加とはいかなかった。